



**当センター 防災訓練
(発電機使用訓練の様子)**

第二十回 平成二十三年十月一日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂三-三-二十五

信頼の絆を更に強くして

保坂 つや子 療育部長

東日本大震災後、例年と違う空気のなかで、八月の「花火を楽しむ夕べ」が開催されました。一人ひとりの利用者様は、ご家族と共にお気に入りの浴衣や祭り半纏などを粋に着こなし、夕暮れの空に舞い上がる、打ち上げ花火やナイアガラ、線香花火などを楽しみました。東部療育センターがひとつに大きく繋がり、利用者様、ご家族、職員が更に絆を深められた気がしています。

今年度も半ばを過ぎようとしています。いつか来るのではと言われていた地震や津波に備えて、何が必要でどのような訓練が重要かなどセンター全体で話し合い、九月一日の「防災の日」には、全職員が参加して地震と津波時の避難、発電機を使用した呼吸器等医療機器の安全作動訓練、非常食の搬送と利用者様にも参加頂き介助と試食訓練を実施しました。今回の訓練結果をしっかり分析し対策を立てると共に、毎月実施している訓練も含め経験力を高め、いざと言う時に力を発揮できるようにして

いきます。
また、今年度は東京都福祉保健局の支援で「プロフェッショナルナース育成研修」第一期生が二年間の研修を修了し、成果を活かし活躍しています。さらに、都内の重症心身障害児(者)施設では初めての「皮膚・排泄ケア認定看護師」が誕生しました。療育・看護の質向上に大きな力になると思います。引き続き東部療育センターの理念を具現できるよう各部門一丸となりサービスイノベーションと職員育成に力を注ぎ信頼の絆を強固にしていきたいと思っております。



当センター防災訓練
(病棟からの報告を受ける保坂療育部長)

病棟

今回で病棟では四回目、通所では初めてとなる、「花火を楽しむ夕べ」が八月十日、十七日、二十四日(病棟)、八月十九日(通所)に開催されました。病棟の開催日は三日間とも天候に恵まれました。最新の曲や夏の定番ソングをBGMに、手持ち花火、打ち上げ花火、ドラゴン系花火、回転花火、連発花火、ナイアガラを楽しみました。また、四回目となる今回は、回転花火と連発花火が増えました。回転花火は、観る角度によってさまざまな形に変化するよう、ハート型に観えた方もいたとのこと、ロマンティックな演出効果があつたようです。

そして、毎回みなさんを魅了する恒例のナイアガラの終盤には、連発花火とのコラボレーションがありました。汗ばむ夜空の下、キラキラと輝く花火や煙の香りに夏を感じ、参加された方々の心に素敵な思い出の一ページが刻まれれば幸いです。
来年もお楽しみに。

通所

八月十九日(金)に通所で初めての「花火を楽しむ夕べ」を開催しました。当日は朝からあいにくの大雨。実施できるか不安な様子でみなさんは通所されてきました。日中は予定通り、肝試しや盆踊りを体験。手の込んだ肝試しでは泣いたり笑ったりと雰囲気も味わえました。盆踊りではこの日に向けて作ってきた手作りの回廊をもって練習とあり賑やかに夏を感じることができました。また、夏の思い出としてインスタントカメラで撮った自分の写真に装飾をしました。

夕食後になると気になっていた雨も小ぶりになって、プログラムに若干の変更がありました。まずはそれぞれの手持ち花火でスタート。続いて、仕掛け花火や連発花火を観賞。特に豪快に回転する花火はその迫力に歓声があがるほどでした。
通所では初めての行事でしたが、無事に実施することができました。「何年かぶりに花火ができた」と感想もあり、職員・スタッフも含めて楽しめました。

花火を楽しむ夕べ

ナイアガラ
(東部バージョン)



花火を楽しむ夕べ
恒例の豪華クライマックス

手持ち花火



回転花火



花火

自慢メニュー

お楽しみランチ

当センターでは「楽しい食事」の一環として月一回のペースで「お楽しみランチ」を行っています。一年毎にテーマを決めてそれに因んだ料理を、材料を選んでいつもより手間をかけて作っています。

一昨年は「世界各国の代表料理」、昨年は「日本全国駅弁巡り」、そして今年には「井料理で、がんばろう日本！」をテーマとしました。特に今年には「井料理で栄養をガッツリ摂りたい」という男性陣のリクエストに添えて思い切ったコツテリの味付けが特徴です。九月まで実施した料理は写真の通りです。

いつもより早いペースで、ムセも少なく、時にはにっこりしながら上手に食べている利用者様を見て私達は「美味しく感じてもらえているのかな」と思っています。これからも業務を調整しながら、利用者様に「あっ」と喜んで頂ける食事作りをして参ります。

ボランティア活動

【ニュー・アンサンブル・アコルデ】

アコーディオングループの私達は、結成して二十四年になります。いろいろな所で演奏しますが、どんな所でも初めての出会いはドキドキです。

私たちが東部療育センターに何った四年前もそうでした。どんな曲なら楽しんでもらえるか、大きい音にびくつきりしないか、等々。回を重ね、ようやく私たちの音楽と入所通所の皆様、ご家族、スタッフの皆様とがコミュニケーションできるようなって来たと感じています。楽しんでる皆様の声や体の動きがピンピン伝わり私たちも嬉しい思いました。

これからも皆様の心に届き、「コミュニケーション」できるような練習に励みます！また会う日を楽しみに！



アコーディオングループ『アコルデ』の演奏の様子

今年のお楽しみランチ



お楽しみランチメニュー (月別)

新人紹介

七月より新しく入った太田先生の紹介をします。

太田 秀臣先生

七月から東部療育センターにお世話になっております。大学を卒業して三十七年となりますが、前の勤務先(厚木市立病院)を含めてほとんどの期間大学病院と一般総合病院で小児科医として診療にあたってきました。このたび、長い医師生活で初めて心身障害児者のための療育施設に勤務することになりました。今までの医療現場とは異なり、私にとって初めて経験することも多く、毎日が勉強と感じています。今後は多くのことは学ばねばなりません。一つずつ自分のものにしていき、少しでも利用者様とその家族の方々のためになりたいと思っています。まだまだ至らない点が多々あると思いますが、どうぞ今後共よろしくお願ひします。

防災訓練

始めての備蓄食

東日本大震災を踏まえ、今回私達は津波発生を想定して外階段を使った非常経路の確認をしました。

同時に、今年は訓練の一環として昼食に備蓄食を準備し、実食のための介助訓練をしました。開設時に計画した備蓄食(粥・おかず・栄養補助ジュース)等について「食事量・食物形態・味」を初め、「安全な環境設定・ゴミを出さない食事介助の工夫・スプーンの適否」等を多くのスタッフと共に改めて検討しました。少し足りない様子もあつたものの、利用者様はほとんどの方が三品を残さず召し上がられていて、味等については一安心だった一方、食器は見直しが必要となりました。また介助までの場面セッティングは病棟毎やスタッフ毎に様々に行われ、安全で合理的な工夫が試みられていました。

災害時の食事は正さに命綱です。命を支えるべく、これらの結果の検証を重ね、訓練を繰り返して、経管栄養食も含めて備えたいと考えています。



訓練で用いた備蓄食

プロフェッショナルナース 第一期生として

平成二十一年五月から平成二十三年三月までの二年間、東京都重症心身障害者プロフェッショナルナース育成研修に四名が受講し、第一期生として全ての過程を修了することができました。

この研修は、重症心身障害の看護分野における専門的な知識・技術を理論的に探究し、質の高い看護実践活動と指導的役割を果たす人材を育成することを目的に、東京都福祉保健局が主催した研修事業です。カリキュラムは講義、演習、実習、研究が主な内容で、学び多いものでした。また、今回の研修では都内九施設から受講生が集まり、お互いの施設について情報交換ができたことも有意義でした。研修を通して一人ひとりの状態や状況に合わせた療育、生活の質を高めるための療育について理解を深めることができました。この学びを今後の実践に役立て、利用者様の療育サービスの向上に活用していきたいと考えています。



プロフェッショナルナース育成研修修了第1期生の皆さん

東部あねこれ

今年の七月から九月にかけて当センターで行われた行事等について紹介いたします。

【七月】
三月に発生した震災の影響を受け、余震に対する安全確保と節電対策の両面を考慮し、七月から九月までの三か月間について、プールの利用を見合わせました。プールの利用についてはセンター内の利用者様のみならず地域開放も行っているため、一日も早く環境が改善し、再開できることを願っています。

【八月】
一月に植えた駐車場脇のカントリースレッド(百日紅の一種)が夏の青空に向かって濃いピンクの花を咲かせました。今年植えたためか花は少なめでしたが、来年の夏にはきっとたくさん花を咲かせてくれることでしょう。

【九月】
五月から始まった通園バスを利用したバスハイクは、通所(成人、乳幼児)施設が九月六日をもって早々と終了しました。引き続き地震や台風など災害が心配されますが、残る病棟のバスハイクもきつと無事に行われることと思えます。

皮膚・排泄ケア認定看護師として

このたび、平成二十二年度東京都福祉保健局の「東京都重症心身障害児(者)施設における認定看護師認定派遣研修」第一期生として、一年間の研修を修了致しました。七月には、日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、皮膚・排泄ケア認定看護師としてのスタートをきったところです。

皮膚・排泄ケア認定看護師は、人工肛門造設や褥瘡などの創傷及び失禁に伴って生じる問題に対して質の高い看護サービスを提供することを目的としています。特に、スキンケアは、皮膚・排泄ケア領域全てに共通し基礎となる部分であり、健康を害した皮膚並びに皮膚障害のリスクの高い脆弱な皮膚に対し、健康を取り戻すための欠かせない知識・技術です。

今後、得た知識と技術を自ら実行することで、利用者様の苦痛の軽減に努めると共に、施設全体のケア向上を目指したいと考えています。



皮膚・排泄ケア認定看護師 山本 さん



編集後記

強烈だった夏の日差しも弱まり、朝夕はしのぎやすくなってきた今日この頃ですが、猛暑の疲れが出たのか朝起きるのがつらい時があります。節電対策により夏場の電力危機はなんとかが乗り切ったようですが、早くも冬場に向けた電力不安がささやかれています。急場をしのいだ安心感が酔っことなく、今後も気を引き締めてセンターの運営に当たらなければならぬと感じています。